2013年　初心の会レポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　野沢温泉　米持多恵

子どもたちは高校3年生の夏休みを迎えています。希望する進路に向け補習に通う娘や、大学野球の練習会から帰って来た息子の姿に、ああ、この子たちはもうすぐ巣立っていくんだなあ。と感じています。私は相変わらず右往左往して余計な心配をしながら、この頃は、子どもたちが帰ってくる場所を大切にしたいなあ。という思いが強くなってきました。

私は、６月末にアキレス腱を痛め、今はリハビリ中です。入院して最初は、あれもこれも自分でやらなくちゃいけないのに・・・出来ない・・・と思い込み苦しんでいました。怪我をした当時、私は心配ごとに縛られていました。６月末、職場は決算で忙しく、息子は高校最後の夏大会の背番号を頂けるかどうかの境で、心身共に荒れ模様、家での態度は最悪。娘も最後の大会に向け、友人とのメールも一切絶ち家族との会話も少なく、ただ自主練習。そんな中、私は不安で、心配でたまらない気持でした。余計なことを言うまい、と思うと余計に言ってしまい、子どもに「うざい」という態度をとられ、落ち込み・・・・分かろうとしても、余計な心配をやめられず、本当に私はどうかしていました。

だから、神様は突然、私をこどもたちから引き離し、クールダウンする時間を与えてくださったのだと思います。

今になって思えば、私ができるのは、別の目線に立って、娘も息子もどうやって目の前の壁を乗り越えていくのかを見守ろうとすることでした。そして、自分の不安や苦しみを正直に夫と話すことでした。そうしていたら、もっと楽だったかなあ。と思います。

入院して良かったこともありました。家族にとって一番良かったことは、子どもと父親が過ごす時間が増えたことでした。今まで、息子が大学に行って野球をやりたいと言っても、将来的なビジョンがないという理由で耳もかさず理解を示さなかった夫ですが、子どもたちと協力して洗濯をしたり、ご飯や弁当を作ったりすることで、子どもたちとお父さんの間に何かが生れたようです。私に対しても夫は、‘自分はこう思うんだけど、彩はこう言うし、翔はこう言うんだけどお母さんはどう思う？’というように、細かな部分でのすり合わせをしてくれるようになりました。気がつくと夫は「頑張れ」と息子に言い、大学の練習会に連れていく道順を調べていました。

私は松葉づえ生活で、他の人に助けていただきながら毎日過ごしています。そんな中、「母だから」「嫁だから」「自分でやらなければならない」と思いあがっていた自分が少しずつ見えてきました。それは、口では「子どものため」、「家族のため」、と言いながらも、結局「自己満足」のためだったこともみえてきました。

今年の1月、北島由美先生にご手配いただき、「しなのキャンパスの研修」として、由美先生の叔父様の小林剛先生が学園長をされている、「兵庫県立神出学園」（フリースクール）、と、田中和幸先生が20年来学ばれている東井義雄先生の記念館へ行かせていただきました。

研修から戻り、ご縁から東井浴子先生に本をお送りいただき、お礼の手紙を出すと、早速お電話をいただきました。「手紙をよう書かんから、お礼の電話してみました」とおっしゃいました。「それで、しなのキャンパスさんのお1人お1人はどういう繋がりなの？」と聞かれ、市川小学校から田中先生にお世話になっていること、リトミックで由美先生にお世話になっていることなど、浴子先生がたくさん質問してくださるままにお話をさせていただきました。だめな子。と言われ続けた息子が、田中先生にありのままを受け入れていただき、由美先生のリトミックでそのままで良いんだよ。と言っていただいた時に、私が一番救われたことも話しました。

すると、浴子先生は「うちの方もへき地やから、１クラス9人とか6人とかですよ。野沢温泉の市川地区とおんなじと思います。あなたは、田中先生や由美先生から学ばせていただいていることを周りの方たちにお話していかないと（いけない）。ダメな母親だからこそ言えることもあると思う。人一倍救われたことも。うちだって、おじいちゃんがへき地教育で立派なお仕事をしてきたけれど、私の子どもは1人も家に残っていないんですよ。長男はトヨタ自動車の関係でいまアメリカやし。１番下の息子だけは、今姫路で高等職業訓練学校で若い人たちに溶接のやり方を教えているの。先生って言っていいのかどうか。でもね、そんな息子たちも帰ってくると、ふるさとっていいな。って言うんですよ。自分が還る場所があるっていいな。って。待っていてくれる人が居るっていいな。って。だからね、ここに居る人がどうするか、なんですよ。居るものが守っていかないと。だからね、自分のこどもに充分なことが出来なかったって思ったら、他の人のお役に立てばいい。それは巡り巡って、また自分の子どもにかえってくるからね。」

　子どもたちが帰る場所を大切にしたい。という思いの中、時々浴子先生からいただいたお言葉を思い返しています。ただ、心配ごとが出て来ると、どうにも平常心でいられなくなってしまいます。大切なことは何か、ということをいつも自問しなければならないと思います。

　幸い、私たちには由美先生のリトミックで学ばせていただける場所があります。由美先生は、小学生や幼児から飛び出す芽を見逃しません。表には見えない部分で、子どもたちと由美先生がじっくり、じっくりと時間をかけて築いてこられた関係があることも、子どもたちは安心して由美先生の前に自分自身をさらけ出すことが出来ることの１つだと思います。

　私は、学ばせていただきながら、誰のために大切なことなのか。ということを常に心に留めようと思います。子どものため、と言っていることは、本当は私自身のエゴではないのか・・・。と振り返るばかりです。

　１月の研修のレポートを添付させていただきます。

　つたないものですが、ご覧ください。